



発行元：民主党プレス民主編集部

東京都千代田区永田町 1-11-1

TEL：03-3595-9988（代表）

連絡先：民主党静岡県参議院選挙区第3総支部

静岡市駿河区南町 6-16 202-2

TEL：054-280-7604 FAX：054-285-7993

号外



参議院議員

藤本祐司

2010年2月号

“観光”が日本の経済を救う！！

1月26日、私はブルネイで開かれた「東南アジア諸国連合（ASEAN）+日中韓の観光大臣会議」から帰国した。この観光大臣会議で、私はASEAN諸国の経済成長とともに国際観光面での日本への期待がたいへん大きいことを感じた。同時に、各国とも中国からの観光客をいかに取り込むかが観光活性化に向けた共通の課題であるとの認識を持っていることを強く感じた。

このようなアジアを取り巻く状況の中、日本も国内観光だけでなく、国際観光、特に外国からの旅行者やビジネス客といった訪問客を誘致しようと本格的に取り組み始めた。このことは、鳩山内閣が観光を政府の成長戦略の柱に位置づけていることや平成22年度予算で観光予算を前年度比で2倍に増やしたことから理解してもらえらると思う。私は、日本経済の成長戦略である観光を担当する国土交通大臣政務官として重要な役割を担っており、責任の重さを感じている。

前原誠司国土交通大臣は「**観光は財政出動なしで効果があがる重要な政策**」と言っている。観光は、各地域があるがままの姿の魅力（地域資源）を見つけ、その魅力を磨いて広く知らせることによって国外地域外からの観光客を呼びこむ政策である。多額のお金をかけて箱物や施設を作る必要性はない。

政府は、前原大臣を本部長として「観光立国推進本部」を立ち上げ、その下に「外客誘致」「休日分散化」「観光連携」の3つの作業部会を作った。部会はいずれも私が事務局長を務める。各部会は関連する省庁の横断的組織であり、副大臣または大臣政務官で構成する。官僚が根回しした後に政治家が参加するのではなく、**最初から最後まで政治家で議論して決定する。まさしく政治主導の会議体である。**

では、**なぜ観光が成長戦略の柱になりうるのか。**1つ目の理由は、**観光活動が名所旧跡を見て回る**いわゆる物見遊山的な観光から**テーマや物語性を重視する観光に変わりつつある**ということ。たとえば各地域に一級の名所旧跡はなくとも、美しい景観、祭りや伝統工芸やおいしい食べ物といった広い意味の地域文化がある。何よりも暖かい人がいる。こうした資源こそが観光資源なのだ。作り物ではなく本物がある。その本物を探し、磨き、発信することで地域はよみがえる。

2つ目は**観光が観光事業者のためだけではなく、農業・林業・水産業の方々、商工業、普通の住人たちみんなの力が必要であり、それぞれに恩恵をもたらすから**である。つまり、観光は地域ぐるみで取り組めば、その地域経済全体に影響を及ぼす。観光が総合産業といわれるゆえんである。

3つ目は、**観光は雇用を生み出す可能性が高い**ことだ。観光は人手の商売と言われる。おもてなしの質の高さは携わる人の質と量に比例する。さらに、旅館や観光施設等の繁閑の差が今よりも小さくなればより多くの雇用を生むことにつながる。そのためには、現在集中している休日を分散する政策が必要になる。私は自分が大臣政務官である間にこの“休日の分散化”政策をなんとか実現したいと考えている。

観光政策は地域振興の起爆剤だ。幸い静岡県には多くの資源が眠っている。この資源を探し出し、磨きをかけ、世界に発信して行くのは各地域の役割である。まずは、“ないものねだり”から“あるもの探し”へと発想と意識の転換が必要である。

～藤本ゆうじの自分史～ その6

昨年末、子どものころは大晦日の楽しみという
と「NHK紅白歌合戦」だったことを思い出した。
そこで今回は歌の話。

静岡の聖母幼稚園の時のこと。園児たちが順番
にそれぞれ好きな歌を歌った。みんなは童謡だっ
たが、普段から父親が私に流行歌を熱心に教えこ
んでいたこともあり、私は『東京ラブソディー』
を歌った。“花咲き、花散る宵も・・・”と藤山一
郎の歌を熱唱した。幼稚園児が、童謡ではなく大
人の流行歌を訳もわからずに朗々と歌ったため、
先生たちは感心するやら大笑いするやらだった。

城内小学校（静岡）の時は植木等の『ス
ーダラ節』。幼なじみのお母さんに「家に遊びにく
ると、ゆうちゃんはいつもスーダラ節をジェスチ
ャーたっぷりで歌ってたよ」と今もからかわれる。

熱海第二小学校時代は水前寺清子の『いっぽん
どっこの歌』だった。“ぼろは着てても心は錦・・・
若いときゃ、二度ない、どんとやれ。男なら・・・”
という歌詞だ。今でもなかなかの歌詞だと思う。

高学年になるとグループサウンズに興味が移っ
た。タイガースの曲はたいてい覚えた。

大学生の時はコンパでよく沢田研二の振り真似を
した。『勝手にしやがれ』『TOKIO』など何度も
テレビを観て踊りまではほぼ完璧にマスターした。
先日 25 年ぶりに会った大学の後輩には「藤本さんは、
まだジュリーやっていますか？」と聞かれた。「や
っているわけがないだろ！」と心の中でつぶやいた。

中学に入ると父親が時々レコードを買ってくれ
た。それがグレンミラーなどのビッグバンドジャズ
である。今は子どもを静かにさせるためにゲームを
買い与えるようだが、私の場合はレコードがその役
目を果たしていたようだ。その父親の影響もあつて
かどうかわからないが、今ではジャズを中心にジャ
ンルを問わず何でも聴く“音楽大好きおじさん”に
なった。参議院議員になってから静岡の FM・Hi
で毎月第4金曜に放送している「藤本ゆうじのかる
～くポリティックス（下記「活動紹介」を参照）」
では、必ず私が季節や時の社会イメージに合わせて
1曲選曲している。

さて、民主号外2月号は音楽（歌）の話題で終わ
ってしまった。3月号は、熱海から東海道線に乗っ
て通った沼津第一中学の頃の話から始めることに
したい。＜続く＞

＜藤本ゆうじの活動紹介＞

■藤本ゆうじのホームページにアクセスしてください。 <http://www.fujimoto-yuji.org/>

*藤本ゆうじの政府や国会での活動、政治姿勢や考え方を知ることができます。

■メールマガジンに登録してください。

*ホームページの内容や毎月発行している民主号外など藤本祐司の活動をメールマガジンで配信していま
す。藤本祐司のホームページから簡単に登録できます。

■民主党参議院議員藤本ゆうじのラジオ番組「藤本ゆうじのかる～くポリティックス」

*2月の放送は2月26日（金）です。タイムリーな国会の話題とともに私が選んだ極めつけの音楽を1曲
お届けします。FM・Hi(76.9MHz)に合わせてお楽しみください。

＜藤本ゆうじ事務所＞

静岡事務所 〒422-8067 静岡市駿河区南町6-16 パレ・ルネッサンス 202-2

TEL : 054-280-7604 FAX : 054-285-7993 Eメール : office-fujimoto@fujimoto-yuji.org